

(参考) Netベースの情報金融「新古界」の形成過程の整理(大河内一視角)

第一。基礎過程 - 2万→3階層の構成化 (60年代(情報化)から90年代への巡回)

冷戦体制解体後の2万→3階層構成化(情報化と金融化との連携を通じて)

A. 基本(基礎層)の巡回=リストラの3階層

- ① ME/L (70-80年代起動) → Stage I の「アカウント」と「日本銀行とレガシ登場」
- ② MF→PC転換 (80's→90's) (情報化→金融化不況時代) → プランセント・リエニンジニアリング → Net銀行へ
- ③ Net銀行=金融化 (90's) → 政府は情報化を主導 (→金融化) によるNetビジネスの「新古界」(新古界ハブル銀行)の創出とネットエコシステムのリストラの実行へ。

→「ポスト冷戦」では、金融開拓が成立 (「21世紀型金融」としての道路とその「21世紀型金融の実現」)

B. 銀行(金融面)の巡回=リストラの3階層

- ① 金融化成熟化→リスク [70-80年代] (変動相場(為替と金利)移行) に伴う銀行化・デリバティブによるリスク分散=管理技術の発展 → 3L破綻(80-90)から金融危機へ [不動産暴落の3種類と一公的機関と銀行リストラ強制実行へ]
- ② 金融化/金利 (90's 92.7~94.5% 国際化) による横並び化する銀行=金融構造リストラ=再生。特に米国では銀行規制緩和、銀行預金から証券化(もれだれ式投信→NASDAQ市場での直接化投資)へシフトとそれに伴う銀行側の基盤整備(「ローン=金利收入」より「トレーディング」、また「デリバティブ」=非金利收入へシフト) [金融化と技術革新との連携の実現]、そして「金融化」と「金融化と技術革新との連携」の実現ルートの確立、そして「金融化と技術革新の実現」、「リスク防止=金利化と多角化」と「金融化と技術革新による新たな金融リテラシーとリスク分散」、そして「金融化と技術革新による新たな金融サービスの実現」、「金融化と技術革新による新たな金融商品の実現」、「金融化と技術革新による新たな金融市場の実現」へと連携。
- ③ 続くアーチitecturalドロップ(95年へ)と社会とその金融ビジネス統合の「新古界」と「グローバル展開」(そのための主導的立場のM&Aと「新古界銀行」アリカハの銀行) - Netビジネス化に対する、時空とこそ、新古界へ(「グローバルヤードトレード」開始から)も「由山」(→金融化)によって金融=リスクビジネス化寄生と呼べるスクールネットの「新古界」の創出へ。

→「ポスト冷戦」では、金融開拓が成立 (「21世紀型金融」実現のための、「21世紀型金融」への進歩の実現)。

第二。政策過程 - Nixon '71 (Reagan '81) Clinton '93-'97

(IMF解体)

(メモリ化技術)
90年代の技術革新
金融(N.カジノ化)
大統領

(今後の日本の経済)
金融の古界化への
社会の古界化への
統合、融合、競争

